

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～4組
 教科担当者：（1組：藤原・長谷）（2組：藤原・伊藤）（3組：藤原・安居院）（4組：藤原・長谷川）
 使用教科書：（第一学習社 現代の国語）

- 教科 国語 の目標：
- 【知識及び技能】日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。□
 - 【思考力、判断力、表現力等】日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。□
 - 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度を養う。□

科目 現代の国語	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	姿勢正しく、進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
		読	書					
評論「生きもの」として生きる 【知識及び技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・教材/「生きもの」として生きる ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等		○	【知識・技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7
小説「夢十夜」 【知識及び技能】常用漢字を文や文章の中で活用する。 【思考力、判断力、表現力等】文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 ・教材/「夢十夜」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等		○	【知識及び技能】常用漢字を文や文章の中で活用できている。 【思考力、判断力、表現力等】文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学び、理解している。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
定期考査					○	○		1
1 学期 評論「本当の自分」幻想 【知識及び技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 主題に至る論の構造を把握し、主題に説得力を持たせるための論の展開について考える。「自分」への理解を深める。 ・教材/「本当の自分」幻想 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等		○	【知識・技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7

	<p>評論「水の東西」</p> <p>【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 東西の対比関係を用いながら、日本の水文化にみられる特徴について論じる上述の方法を把握する。 二項対立の関係を学び、筆者の主張を読み取る。</p> <p>・教材/「水の東西」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識・技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
	<p>評論「ものことば」</p> <p>【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言葉の性質を理解する。</p> <p>・教材/「ものことば」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識・技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査					○	○		1
2 学期	<p>『現代の「世論操作」』</p> <p>【知識及び技能】 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。</p> <p>・教材/『現代の「世論操作」』 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識及び技能】 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学び、理解している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>小説「鏡」</p> <p>【知識及び技能】 常用漢字を文や文章の中で活用する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を踏まえて、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p> <p>・教材/「鏡」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識及び技能】 常用漢字を文や文章の中で活用する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学び、理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査					○	○		1
	<p>評論「不平等な時間」</p> <p>【知識及び技能】 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 具体的事例から一般論への展開と、対比の構造と手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。</p> <p>・教材/「不平等な時間」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識及び技能】 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学び、理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	7
3 学期	<p>小説「城の崎にて」</p> <p>【知識及び技能】 常用漢字を文や文章の中で活用する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>	<p>・指導事項 教材/「城の崎にて」 3つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。</p> <p>・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識及び技能】 常用漢字を文や文章の中で活用する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学び、理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	10
	定期考査					○	○		1
									合計
									70

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 地理歴史科 科目 歴史総合

教科: 地理歴史科 科目: 歴史総合 単位数: 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 4 組

教科担当者: (1 組: 安田) (2 組: 安田) (3 組: 安田) (4 組: 安田)

使用教科書: (歴史総合 第一学習社)

教科 地理歴史科 の目標:

【知識及び技能】 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 単元 第1章歴史の扉 歴史と私たち 【知識及び技能】 宗教についての基本的な知識について理解して、共通性や特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料などから関連性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 世界の主な宗教について ・教材 教科書、プリント、 一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 宗教についての基本的な知識について理解して、共通性や特徴について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 資料などから関連性について考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	4
B 単元 第1節 18世紀のアジアの繁栄 【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアにおける各国のかかわり等を資料を通して読み解き相違点等について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・18世紀アジアの貿易・流通・ 外交 ・教材 教科書、プリント、 一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアにおける各国のかかわり等を資料を通して読み解き相違点等について考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6
1 学期 定期考査	・		○	○		1
C 単元 産業革命と市民革命 イギリスの繁栄 【知識及び技能】 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 産業革命の展開と社会の変化について資料を用いて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組む。	・指導事項 ・産業革命と世界市場の形成 ・欧米の市民革命 ・教材 教科書、プリント、 一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 産業革命の展開と社会の変化について資料を用いて考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組んでいる。	○	○	○	6
D 単元 アジア諸国の変貌 帝国主義の発展 【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地形図や資料などを活用しアジアへのヨーロッパの進出の背景などについて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組む。	・指導事項 ・植民地の形成 ・日清・日露戦争とアジアの変容 ・教材 教科書、プリント、 一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地形図や資料などを活用しアジアへのヨーロッパの進出の背景などについて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に課題に取り組んでいる。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1

2 学 期	E 単元 第一次世界大戦と大衆社会 国際秩序の変化 【知識及び技能】 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組む。	・指導事項 ソヴィエト連邦の成立 ナショナリズムの動向と国際連盟 大正デモクラシー 第一次世界大戦前後の影響 ・教材 教科書、プリント、 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題に取り組んでいる				14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	F 単元 経済危機と第二次世界大戦 【知識及び技能】 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 世界恐慌 ファシズムの伸張 第二次世界大戦の展開 国際協調の課題 ・教材 教科書、プリント、 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題に取り組んでいる				14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	I 単元 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 【知識及び技能】 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組む。	・指導事項 第二次世界大戦の戦後処理 新たな国際秩序 冷戦の開始 冷戦のアジアへの影響 日本国憲法の制定 日本の独立回復 ・教材 教科書、プリント、 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組んでいる。				6
	J 単元 単元国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 【知識及び技能】 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組む。	・指導事項 冷戦と脱植民地化 第三世界の台頭 ・教材 教科書、プリント、 ・一人2台端末の活用 等	【知識及び技能】 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に課題に取り組んでいる。				4
定期考査				○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： （1組：柳沢勇貴・田中友貴） （2組：柳沢勇貴・田中友貴） （3組：柳沢勇貴・田中友貴） （4組：柳沢勇貴・田中友貴）

使用教科書： （新 高校の数学Ⅱ 数研出版）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算 【知識及び技能】 ・三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。 ・分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察しようとする態度を養う。	1. 式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式の計算 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. 3次式の展開の公式を利用できる。3次式の因数分解の公式を利用できる。 2. 二項定理を利用して、展開式や項の係数を求めることができる。3. 分数式を約分することができる。分数式の四則演算ができる。 【思考・判断・表現】 1. 3次式の展開の公式を導き出すことができる。2. 展開式の係数について、コンビネーションを利用して考察することができる。3. 分数式の計算について、分数の計算と同じように考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 1. 3次式に関する公式を利用して、課題に取り組もうとしている。2. 二項定理を利用して、課題に取り組もうとしている。3. 因数分解を利用して、分数式の計算に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第1章 複素数と方程式 第2節 複素数と方程式 【知識及び技能】 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができるようにする。 ・二次方程式の解の種類を判別について理解することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数の範囲を複素数まで拡張することにより、2次方程式がいつでも解をもつことを理解し、方程式についての理解を深めることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察する態度を養う。	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. 複素数について理解し、虚数単位を用いて処理することができる。複素数の計算ができる。2. 2次方程式を解くことができる。判別式を利用して、2次方程式の解を判別できる。 【思考・判断・表現】 1. 複素数の表裏を理解することができる。2. 判別式で解の種類を判別できることを理解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 1. 数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて考察しようとしている。2. 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学 期	第1章 複素数と方程式 第2節 複素数と方程式 【知識及び技能】 ・2次方程式の解と係数の関係について理解することができるようにする。 ・多項式の除法について理解し、簡単な場合について計算できるようにする。 ・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・解と係数の関係、因数定理のよさを認識し、活用しようとする態度を養う。	1. 解と係数の関係 2. 多項式のわり算 3. 因数定理 4. 高次方程式 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. 解と係数の関係を使って、2次方程式の2つの解の和、積を求めることができる。対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。2数を解にもつ2次方程式を作ることができる。2. 多項式の割り算の計算方法を理解し、計算することができる。3. 剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。因数定理を利用して、ある1次式が多項式の因数であるか調べることができる。因数定理を利用して因数分解できる。4. 因数分解を利用して、高次方程式を解くことができる。因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 1. やや複雑な2数を解にもつ2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。2. 多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。3. 多項式を1次式で割ったときの余りを求めるのに、剰余の定理が利用できることを理解している。多項式P(x)がx-kで割り切れることを式で表現することができる。4. 高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 1. 2次方程式の解に関する種々も問題を解と係数の関係を利用して考察しようとしている。2. 多項式の割り算に意欲的に取り組もうとしている。3. 因数定理を利用して、意欲的に問題を解こうとしている。4. 置き換えなどの工夫によって、より良い方法を考察しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	第1章 複素数と方程式 第3節 式と証明 【知識及び技能】 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質を用いて、等式や不等式が成り立つことを証明することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・証明を通して、等式や不等式についての理解を深めるとともに、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・等式、不等式の証明のよさを認識し、活用しようとする態度を養う。	1. 等式の証明 2. 不等式の証明 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. A=Bの証明を適切な方法で行うことができる。与えられた条件式を用いて文字を消去し、等式を証明することができる。比例式をkとおいて、処理することができる。2. A>Bを証明するにはA>0を示せばよいことを利用して、不等式を証明することができる。相加平均、相乗平均の意味と、それらの大小関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 1. 与えられた条件式の適切な利用方法を考えて、等式を証明することができる。2. 相加平均と相乗平均の大小関係の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 1. 数学における証明の意義を理解し、等式の証明に意欲的に取り組もうとしている。2. 数学における証明の意義を理解し、不等式の証明に意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○		1	
3 学 期	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 【知識及び技能】 ・座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を求めることができるようにする。 ・座標平面上の直線を方程式で表すことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・座標を用いて、平面図形の性質や関係を数学的に表現して調べる解析幾何学における方法を理解し、その有用性を認識するとともに、それらをいろいろな事象の考察に活用する態度を養う。	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. 数直線上において、2点間の距離を求めることができる。数直線上において線分の内分点、外分点の位置を求めることができる。2. 座標平面上において、2点間の距離の公式を理解し、距離を求めることができる。座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。重心の座標を求めることができる。3. 1次関数のグラフをかくことができる。条件から直線の方程式を求めることができる。4. 2直線の共有点の座標を連立方程式を解いて求めることができる。2直線の平行、垂直条件を理解して、利用することができる。 【思考・判断・表現】 1. 線分の外分点の公式を内分点と統一して捉えようとしている。2. 三角形の重心の座標の公式を導く際に、重心の性質を適切に利用できる。3. 通る2点が決まっている直線の方程式を、通る1点と傾きが決まっている直線の方程式を利用して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2. 数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の場合を考察しようとしている。4. 2直線の平行、垂直の関係を傾きに注目して考察しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形と方程式 第2節 円 【知識及び技能】 ・座標平面上の円を方程式で表すことができるようにする。 ・軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができるようにする。 ・不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表したりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・座標を用いて、平面図形の性質や関係を数学的に表現して調べる解析幾何学における方法を理解し、その有用性を認識するとともに、それらをいろいろな事象の考察に活用する態度を養う。	1. 円の方程式 2. 円と直線 3. 軌跡 4. 不等式と領域 (教材・その他) 使用教科書及び副教材「新高校の数学対応教科書学習ノート数学Ⅱ」	【知識・技能】 1. 中心の座標と半径から円の方程式を求めることができる。また、円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。直径の両端の座標から円の方程式を求めることができる。x, yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。2. 円と直線の位置関係には3つのパターンがあることを理解している。円と直線の共有点の座標を求めることができる。3. 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。4. 直線、円を境界とする領域を図示することができる。連立不等式の表す領域を図示することができる。 【思考・判断・表現】 1. 円上の点と中心との距離が一定であることに着目し、円の方程式について考察することができる。2. 円と直線の共有点の個数を2次方程式の実数解の個数で考察することができる。4. 不等式を満たすx, yの組を座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。 【主体的に学習に取り組む態度】 1. x, yの2次方程式が表す図形に興味・関心を持つようとしている。3. 点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
						合計	
						70	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科： 理科 科目： 物理基礎 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組
 教科担当者： (1, 2, 3, 4, 組： 佐藤康則)
 使用教科書： (東京書籍 新編物理基礎)
 教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】物体の運動と様々な現象について理解するとともに、探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然界の現象についての観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	運動の表し方について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究し科学的に考察し表現させる。	運動の表し方に関する事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 運動している物体 【思考力、判断力、表現力等】 必要な物理量のうち、時刻や位置を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 記録タイマーとテープを使って、自分自身の運動について調べ、レポートを作成したり他の人の運動と比べたりする。	・運動の表し方 ・速さ ・記録タイマーとテープ	【知識・技能】 運動している物体のようすを、表す物理量のうち、時刻や変位、速さについて理解している。 【思考・判断・表現】 自分の歩行運動のようすを主体的に調べる。 【主体的に学習に取り組む態度】 友達と話し合いながら比較し、その違いなどについて考えようとしている。	○	○	○	7
	B 単元 【知識及び技能】 物体の運動を表すときに必要な情報 ベクトルとスカラー 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動の向きと速さを合わせた量を速度、また一直線上を運動する物体の速度は、正・負で表すことができることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 平均の速度と瞬間の速度の違いについて理解する。	・物体の運動の向きと移動距離 ・変位と速度 ・記録タイマーとテープ	【知識・技能】 物体の運動を表すには、向きが必要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 移動距離と変位の違い、速さと速度の違いを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 友達と話し合いながら比較し、その違いなどについて考えようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	C 単元 【知識及び技能】 等速直線運動 合成速度と相対速度等 加速度直線運動 自由落下運動鉛直投射水平投射 【思考力、判断力、表現力等】 変位と時刻の関係や、速度と時刻の関係をグラフに表す方法、物体が自由落下運動するときの加速度（重力加速度）について、自由落下運動のようすを表す式について、等加速度直線運動の式から導けること、投げ下ろした物体の運動のようすを表す式やグラフで表す方法について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 等加速度直線運動のようすを表す3つの式について理解する。	・物体の運動の向きと移動距離 ・変位と速度 ・記録タイマーとテープ	【知識・技能】 動くものの上で動く物体の速度や動くものから見たほかの動いている物体の速度について理解している。自由落下運動がどのような運動か理解し、その加速度について、投げ下ろした物体や投げ上げた物体がどのような運動をするか理解している。 【思考・判断・表現】 ストロボ写真から、その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現している。得られた実験結果をどのように表現、分析すればよいかを科学的に考察している。等加速度直線運動の式から、自由落下運動のようすを表す式の導き方、等加速度直線運動の式から、投げ下ろした物体や投げ上げた物体の運動のようすを表す式の導き方を理解し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 速度と質量の関係について、実験を通して他人の実験結果と比較しながら調べようとしている。自由落下運動する物体の加速度と質量の関係について、実験を通して他人の実験結果と比較しながら調べようとしている。	○	○	○	3
D 単元 【知識及び技能】 力とつり合い 力の合成と分解 垂直抗力と弾性力 慣性の法則 作用・反作用の法則 動摩擦力と静止摩擦力とその性質 水圧と浮力 【思考力、判断力、表現力等】 実験データをもとに、最大摩擦力と垂直抗力の関係、静止摩擦係数と動摩擦係数の大小関係について理解する。 ニュートンの運動の3法則について知る。ボートやロケットを例に、作用・反作用の力について考える 【学びに向かう力、人間性等】 例題や演習を通して、力と物体の運動の関係について理解を深める。	・力の合成と分解の実験 DVDの活用 ・水圧の実験と映像 ・ICTによる力のアニメーション	【知識・技能】 力のつり合いをもとに、抗力や弾性力の向きや大きさ、フックの法則、垂直抗力と弾性力、慣性の法則、作用・反作用の法則、動摩擦力と静止摩擦力とその性質、水圧と浮力について理解している。 【思考・判断・表現】 物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係を定量的に調べるためにどのような実験を行えばよいか考え、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現しているか？ グラフをもとに、最大摩擦力が垂直抗力と比例することを理解し、静止摩擦係数と動摩擦係数の共通点や相違点を理解しているか？ 【主体的に学習に取り組む態度】 やってみようや活用を通して、日常で見られる現象などに対して慣性がどのように関わっているか、今までの学習と関連付けて考察している。	○	○	○	3	
定期考査				○	○		1

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 1組～4組

教科担当者：(1組：松澤) (2組：齊藤) (3組：齊藤) (4組：松澤)

使用教科書：(現代高等保健体育)

教科 保健体育 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていきける体力・技能・知識を身につける

【知識及び技能】生涯にわたって健康な生活を確立・維持していきけるような知識を身につける

【思考力、判断力、表現力等】健康な生活を確立・維持していきけるよう自ら考え、行動できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】健康な生活を保っていきけるような知識を身につけようと努力する姿勢を持つ

科目 保健 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていきける知識を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたって健康な生活を送れるような知識と技能を身につける。	健康な生活を確立しそれを維持していきけるよう自ら考え、行動できるようにする。	健康な生活を保っていきけるような知識と技能を身につけようと努力する姿勢を持つ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 思春期と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	B 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 性意識と性行動の選択 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	C 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 妊娠・出産と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	D 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 定期考査	・指導事項 避妊法と人工妊娠中絶 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	4
2 学 期	A 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 結婚生活と健康 働くことと健康 労働災害と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
	B 単元 現代社会と健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 定期考査	・指導事項 健康的な職業生活 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
3 学 期	A 単元 安全な社会生活 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 定期考査	・指導事項 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	8

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 4 組
 教科担当者：（1～4組：齊藤）
 使用教科書：（ ）

教科 保健体育 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていきける体力・技能・知識を身につける
 【知識及び技能】さまざまな運動種目の技能やそれに必要な体力とルールを身につける。
 【思考力、判断力、表現力等】さまざまな運動種目の技能の習得とそれに必要な体力の向上やルールについて身につける工夫をする。
 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな運動種目の技能の習得とそれに必要な体力の向上やルールについて身につける努力をする。

科目 体育 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていきける体力・技能・知識を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
様々な運動種目が有ることを知りその技能を身につける。	安全に留意しながらその運動を楽しむことができるようにする。	仲間と協力しながら練習し運動を楽しめるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 バドミントン 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的な打ち方	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	B 単元 バドミントン 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 試合のルール	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	7
	C 単元 体力テスト 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 正しい測定方法	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	D 単元 水泳 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的泳法	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	7
2 学 期	A 単元 水泳 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的泳法	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	B 単元 サッカー 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 キックの基本 ボールコントロール 試合	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	11
	C 単元 バスケットボール 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 パス シュート ドリブル 試合	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	11
3 学 期	A 単元 持久走 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 持久走	【知識・技能】 それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	16

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： (1組：永井) (2組：下井) (3組：永井) (4組：下井)

使用教科書： (家庭総合 明日の生活を築く)

教科 家庭 の目標： 体験的な学習を通して人との協働をし、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する

【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図ると共にそれらに係る技能を身につける

【思考力、判断力、表現力等】生活の中から問題を見出して課題を設定し解決策を構想し実践・評価・改善・表現する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】人と協働し地域社会に参画しようとすると共に生活の充実を図ろうとする実践的な態度を養う

科目 家庭総合 の目標： 体験的な学習を通して人との協働をし、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図ると共にそれらに係る技能を身につける	生活の中から問題を見出して課題を設定し解決策を構想し実践・評価・改善・表現する力を養う	人と協働し地域社会に参画しようとすると共に生活の充実を図ろうとする実践的な態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 青年期の自立 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	B 単元 人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 家族・家庭及び社会 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	C 単元 人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 高齢者との関わりと福祉 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	D 単元 人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 子どもの生活と保育 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	4
2 学 期	A 単元 消費生活と持続可能な社会 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 生活を支える経済 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
	A 単元 消費生活と持続可能な社会 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 消費行動と意思決定 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
3 学 期	A 単元 消費生活と持続可能な社会 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 持続可能なライフスタイルと環境 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	8

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(工業)科目:(電気基礎) 対象:(第2学年3~4組)

教科担当者:(1組: ㊟)(2組: ㊟)(3組:立花・平出 ㊟)(4組:立花・平出 ㊟)

使用教科書: 電気基礎1・2(実教出版株式会社) 使用教材:演習プリント等 単位数: 4単位

指導内容 【年間授業計画】	科目〇〇の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月 電流と磁界 交流の基礎	クーロンの法則を理解し、計算式を用いた問題により理解する。 アンペア右ねじの法則を中心に理解する。 点磁界による磁界の強さ、電流の作る磁界の大きさについてアンペア周回路の法則と関連させて理解する。 正弦波交流の発生原理を理解し、式を導く 角周波数と周波数の関係を理解する。 正弦波交流の瞬時値、実効値などについて理解する	12
5月 電流と磁界 交流の基礎	クーロンの法則を理解し、計算式を用いた問題により理解する。 アンペア右ねじの法則を中心に理解する。 点磁界による磁界の強さ、電流の作る磁界の大きさについてアンペア周回路の法則と関連させて理解する。 正弦波交流の発生原理を理解し、式を導く 角周波数と周波数の関係を理解する。 正弦波交流の瞬時値、実効値などについて理解する	13
6月 磁界中の電流に働く力 R, L, Cの働き	磁界中の電流に働く力の向きを正しく理解できるようにする。 作用する力の大きさを計算できるようにする。 ベクトルを用いて交流が表すことが出来ることを理解する。 R,L,Cそれぞれの機能と交流電圧と、それぞれの素子に加えたときの物理的意味を理解する。	15
7月 磁性体と磁気回路 交流電力	磁気回路について正しく理解しBH曲線を利用できるようにする。 ギャップのある磁気回路の計算ができるようにする。 力率の持つ意味を消費電力と皮相電力の関係から考えさせる。 三種類の電力の関係を正しく理解する。	12
9月 電磁誘導と電磁エネルギー 記号法の取り扱い	誘導起電力の向きを正しく理解し、大きさを求めることができるようにする。 インダクタンス・電磁エネルギーについて正しく理解し、計算ができるようにする。 複素数について正しく理解し、それによる計算に習熟させる。 V,I,Zを複素数で表す方法について正しく理解する。	15
10月 電磁誘導と電磁エネルギー 記号法による計算	誘導起電力の向きを正しく理解し、大きさを求めることができるようにする。 インダクタンス・電磁エネルギーについて正しく理解し、計算ができるようにする。 直列回路・並列回路の計算が正しく出来るようにする。	15
11月 電荷と電界 三相交流の基礎	帯電現象、静電現象を思考実験により理解し、クーロンの法則を使えるようにする。 電界の概念、電位の概念、静電容量について物理的意味に重点を置いて理解する。 三相交流の発生について理解する。 三相交流の表し方について理解する。	14
12月 電荷と電界 三相交流回路	帯電現象、静電現象を思考実験により理解させ、クーロンの法則を使えるようにする。 電界の概念、電位の概念、静電容量について物理的意味に重点を置いて理解する。 Y-Y回路、 Δ - Δ 回路における電圧・電流の関係を理解し、正しく計算が出来るようにする。 Δ -Y回路とY- Δ 回路を理解する。 Y結線負荷と Δ 結線負荷の相互の変換方法を理解する。	12
1月 コンデンサ 三相交流回路	平行板コンデンサに電荷が蓄積される現象を理解する。 コンデンサを並列接続、直列接続したとき、電荷がどのように蓄積されるか、またコンデンサの種類と用途について実物を見せながら理解する。 Y-Y回路、 Δ - Δ 回路における電圧・電流の関係を理解し、正しく計算が出来るようにする。 Δ -Y回路とY- Δ 回路を理解する。 Y結線負荷と Δ 結線負荷の相互の変換方法を理解する。	10
2月 コンデンサ 三相電力	平行板コンデンサに電荷が蓄積される現象を理解する。 コンデンサを並列接続、直列接続したとき、電荷がどのように蓄積されるか、またコンデンサの種類と用途について実物を見せながら理解する。 三相電力の計算が正しく出来るようにする。	12
3月 絶縁破壊と放電現象 回転磁界	絶縁破壊の減少について、まず物理的に説明し、次に絶縁破壊電圧や強さについて具体的に理解する。 放電現象の応用として、蛍光ランプを取り上げ、紫外線の役割について理解する。 回転磁界の発生と三相交流による回転磁界の表し方を理解する。	10
評価の観点・方法	中間考査、期末考査、授業態度、プリント提出、ノート提出、出欠状況などを考慮し総合的に判断し評価します。	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 工業 科目 実習

教科：工業

科目：実習

単位数：3 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

教科担当者：（1組：樋口・佐藤・松枝・苺米・渡辺）（2組：山崎・佐藤・岩間・井上・苺米）（組： ）（組： ）

使用教科書：（工業技術基礎 ）

教科 工業 の目標：

【知識及び技能】旋盤・フライス盤・溶接作業・材料実験の知識と技術を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える

【学びに向かう力、人間性等】実習授業について興味関心を持ち積極的に行動する

科目 実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科目の工業技術基礎を習得したのちの工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身に付け、実際の仕事を適切に処理する能力を身に付けているか。	科目の工業技術基礎を習得したのちの工業に関する諸問題の適切な解決を目指して、的確に表現し伝える能力を身に付けているか。	科目の工業技術基礎を習得したのちの工業技術について主体的に興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付けているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	6
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	6

2 学 期	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
3 学 期	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①旋盤実習・フライス盤実習・ガス溶接実習・材料試験についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
						合計	105

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科：（工業）科目：（電気実習）対象：第2学年 3組

教科担当者：（3組：立花 中澤 長島 印）

使用教科書：

使用教材：実習指導書

単位数： 3 単位

指導内容 【年間授業計画】	科目「課題研究」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
36の実習を1～3学期までにすべてのテーマを学び、実習報告書にまとめる。	実習テーマ	18
	【前期】 ・電気工事①～④ ・リレーシーケンス①～④ ・Excel実習①～④ ・三相電力の測定 ・単相変圧器の三相結線 ・巻線型誘導電動機の無負荷特性と拘束特性 ・巻線型誘導電動機の負荷特性	24
	【後期】 ・PICマイコンの時計製作①～⑤ ・PLC①～⑤ ・パソコン実習①～⑤ ・三相同期発電機の無負荷試験 ・三相同期電動機の特性試験 ・火花ギャップによる交流高電圧の測定 ・標準球ギャップによる衝撃波電圧試験	30
	専門的な知識を技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。	24
		24
		24
		24
		24
		24
評価の観点・方法	実習に取り組む姿勢、製作物の評価、出欠状況、実習報告書等を考慮して総合的に判断し、評価します。	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(機械工作) 対象:(第2学年1・2組)

教科担当者:(1組:嶋田(印))(2組:嶋田(印))(3組: (印))(4組: (印))

使用教科書: 機械工作1・2

使用教材:なし

単位数:2単位

	指導内容 【年間授業計画】	科目「電気回路」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月	機械材料	引っ張り強さ、硬さ、じん性と疲労を理解する。	6
5月	機械材料	金属の結晶構造、鉄鋼材料を理解する。	6
6月	機械材料	非鉄金属材料、非金属材料を理解する。	6
7月	切削加工	切削加工の概要、切削加工と切削工具、工作機械と切削工具の運動を理解する。	6
9月	切削加工	工作機械、切削工具を理解する。	6
10月	切削加工 生産管理	切削工具と切削条件、生産計画と管理のあらましを理解する。	6
11月	品質管理	製品企画、製品設計、生産計画を理解する。	6
12月	品質管理	生産管理、工程管理を理解する。	6
1月	品質管理	資材管理、設備管理、原価管理を理解する。	6
2月	品質管理	品質管理、品質標準を理解する。	6
3月	品質管理	品質保証、品質システムを理解する。	6
	評価の観点・方法	出席状況、授業態度、定期考査、提出物などを考慮して、クラスごとに総合的に判断し、2クラス全体で評価します。	

東京都立北豊島工業高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(原動機) 対象:(第2学年 1組~2組)

教科担当者:(1組:春日 ㊟)(2組:春日 ㊟)

使用教科書:原動機

使用教材:電卓

単位数:2単位

	指導内容 【年間授業計画】	科目「原動機」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月	エネルギーの利用と変換	原動機とは、エネルギー利用の歴史、こんにちのエネルギーと動力、エネルギーの現状と将来	6
5月	単位、密度、比重	単位の意味、単位の変換、密度、体積、質量の関係、比重を理解する。	6
6月	内燃機関	内燃機関のあらまし、熱機関の基礎	8
7月	内燃機関	往復動機関の作動原理と熱効率、往復動機関の構造	5
9月	浮力、圧力、パスカルの原理	浮力の復習、圧力の求め方、パスカルの原理を理解する。	7
10月	パスカルの原理	圧力、面積、力の関係及び力と移動量の間を関係を理解する。	9
11月	絶対圧とゲージ圧	大気圧と水圧の関係、静力学における水圧について理解する。	8
12月	連続の式 圧力エネルギー、速度エネルギー	断面積と速度の関係、流量、質量流量、トリチェリの定理を理解する。運動エネルギーと圧力ヘッド、速度ヘッドについて理解する。	5
1月	位置エネルギー ベルヌーイの定理	位置エネルギー、位置ヘッド。ベルヌーイの式の理解。	6
2月	トリチェリの定理 エネルギー損失	トリチェリの定理、管内のエネルギー損失について理解する	7
3月	エネルギー損失	直管のエネルギー損失について理解する	5
	評価の観点・方法	知識・技能(出席状況、授業に取り組む姿勢、中間考査、期末考査等)、思考・判断・表現(ノート提出、レポート、グループワーク発表等)、主体的に学習に取り組む姿勢(粘り強く学んでいるか、学びに向かう力、人間性等)を総合的に判断し評価する。	

東京都立北豊島工業高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(自動車工学) 対象:(第2学年2組)

教科担当者:(2組:篠原[Ⓜ])

使用教科書:自動車工学(実教出版株式会社)

使用教材:

単位数:2単位

	指導内容 【年間授業計画】	科目「自動車工学」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月	人と自動車	自動車の発達	6
5月	人と自動車	自動車のあらし	5
6月	人と自動車	自動車産業 自動車と社会	8
7月	人と自動車	自動車と環境保全	4
9月	自動車の原理	自動車の力学 動力の発生	8
10月	自動車の原理	動力の伝達 自動車の操作の仕組み 自動車の制御	7
11月	自動車用エンジン	ガソリンエンジン	6
12月	自動車用エンジン	ガソリンエンジン	5
1月	自動車用エンジン	ディーゼルエンジン	6
2月	自動車用エンジン	ディーゼルエンジン	5
3月	自動車用エンジン	ハイブリットエンジン 水素エンジン 等	4
	評価の観点・方法	定期考査、プリントの提出、出席状況、授業態度を総合的に評価する。	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(電気製図) 対象:(第2学年3組)

教科担当者:(3組:渡部颯 ㊟、菊池通彦 ㊟)

使用教科書:製図

使用教材:プリント等

単位数:2単位

指導内容 【年間授業計画】	科目「電気製図」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月 CADの使用方法	Jw_cadによる図面ファイルの内容・使い方・開き方・保存方法を習得する。問題を通してJw_cadの各種コマンドを理解させる。	6
5月 製図の基礎演習		2
6月 製図の基礎演習	負帰還増幅回路の製図を通して、電子部品の図記号を理解させるとともに設計の手順などについて理解させる。	6
7月 製図の基礎演習	高圧受電設備の単線接続の製図を通して、器具の図記号を理解させるとともに設計の手順などについて理解させる。	6
9月 製図の基礎演習	三相誘導電動機Y-Δ始動回路の製図を通してシーケンス図の図記号の理解と設計の手順などについて理解させる。	4
10月 製図の基礎演習	コンピュータの論理回路図の製図の技能の習得およびコンピュータの基本的な論理回路の機能の理解。(全加算器)	6
11月 製品作図演習	<p>今まで学んだ技術・技能の応用としてライトレースカーの製図を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図の配置は適当であるか ・寸法数値や寸法補助記号の位置と大きさは適当であるか ・表題欄は正しくかけているか ・部品欄は正しくかけているか 	4
12月 製品作図演習		5
1月 屋内配線図演習	<p>住宅の図面を用いて屋内配線図の作成の仕方を習得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電灯、電力設備および情報設備の屋内配線図を理解させる ・屋内配線図の書き方を理解させる ・屋内配線設計の基礎的事項を理解させる 	4
2月 屋内配線図演習		4
3月 屋内配線図演習		2
評価の観点・方法	図面の仕上がりおよび提出状況、授業や演習に取り組む態度、出欠状況などを考慮して総合的に判断し評価する	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(電気機器) 対象:(第2学年3組)

教科担当者:(3組:青柳 ⑩)

使用教科書:

使用教材:

単位数: 単位

指導内容 【年間授業計画】	科目「電気機器」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月 直流発電機の原理	直流電圧の発生や発電機の構造の理解	4
5月 直流発電機の原理	電機子巻線法、起電力の大きさの理解	8
6月 直流発電機の構造	トルク出力、逆起電力と電機子電流の理解	8
7月 変圧器の効率	理想変圧器の電圧、電流、磁束	4
9月 三相誘導電動機の特性	滑り、誘導起電力、簡易等価回路	8
10月 三相同期発電機の特性	トルクの特性、始動方法、速度制御	8
11月 変圧器の効率	理想変圧器の電圧、電流、磁束	8
12月 三相誘導電動機の特性	滑り、誘導起電力、簡易等価回路	4
1月 三相同期発電機の特性	トルクの特性、始動方法、速度制御	6
2月 三相同期発電機の特性	トルクの特性、始動方法、速度制御	8
3月 三相同期発電機の始動方法	円線図、無負荷試験	4
評価の観点・方法	定期考査点、出席状況、授業態度、ノート点を参考に総合的に評価する。	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科：（工業）科目：（電力技術）対象：（第2学年3組）

教科担当者：（3組：澤泰輔 印）

使用教科書：実教出版 電力技術 使用教材：プリント等

単位数：3 単位

指導内容 【年間授業計画】	科目「電力技術」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月 エネルギー資源の歴史	人類のエネルギー資源利用史 限りある資源を次世代にどう受け継いでいくかの検証	9
5月 水力発電	エネルギー変換 理論出力	11
6月 水力発電	水車の種類 効率の向上	11
7月 火力発電	蒸気と熱サイクル 熱効率 環境対策	8
9月 送電	送配電システムの構成 送電線路の電気的特性	11
10月 送電	電圧降下 送電線路の事故	11
11月 配電	配電線路の構成 架空配電線路	8
12月 屋内配線	自家用電気設備 キュービクル式受電設備	8
1月 屋内配線	回路方式 配線器具	10
2月 電気に関する法律	電気保安4法	9
3月 まとめ	電力技術と関連職業	9
評価の観点・方法	中間考査、期末考査、授業中の演習に取り組む態度、ノート提出、出欠状況などを考慮して総合的に判断し、評価します。	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(ハードウェア技術) 対象:(第2学年4組)

教科担当者:(4組:藤原 ㊟)

使用教科書:ハードウェア技術(実教出版)

使用教材:

単位数:4単位

指導内容 【年間授業計画】	科目「電子情報技術」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月 情報の表し方	アナログとデジタル、数の表し方(相互変換)	12
5月 情報の表し方	数の表し方、2進数の演算	16
6月 情報の表し方	はーど	16
7月 情報の表し方	情報の表し方	8
9月 コンピュータの電子回路 コンピュータ制御	電子回路の基礎、論理回路と論理式 コンピュータ制御の概要、インターフェイス	14
10月 コンピュータの電子回路 コンピュータ制御	論理回路と論理式、フリップフロップ インターフェイス、センサとアクチュエータ	16
11月 コンピュータの電子回路 コンピュータ制御	フリップフロップ、フリップフロップの応用 制御用ワンチップマイコン	16
12月 コンピュータの電子回路 コンピュータ制御	フリップフロップ、フリップフロップの応用 制御用ワンチップマイコン	10
1月 コンピュータの機能と構成 コンピュータの利用と電子情報技術	マイクロプロセッサと処理装置、主記憶装置、補助記憶装置 オペレーションシステム、コンピュータの処理形態、コンピュータネットワーク	10
2月 コンピュータの機能と構成 コンピュータの利用と電子情報技術	補助記憶装置、入出力装置 コンピュータネットワーク、マルチメディアと電子情報技術	14
3月 コンピュータの機能と構成 コンピュータの利用と電子情報技術	補助記憶装置、入出力装置 コンピュータネットワーク、マルチメディアと電子情報技術	8
評価の観点・方法	定期考査、提出物、授業態度を考慮して総合的に判断する。	

東京都立北豊島工科高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科:(工業)科目:(電子回路) 対象:(第2学年4組)

教科担当者:(4組:田丸[Ⓜ])

使用教科書:電子回路(実教出版株式会社)

使用教材:添付用回路図と演習プリント

単位数:3単

	指導内容 【年間授業計画】	科目「電子回路」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月	半導体とは	半導体とキャリアのふるまい ・半導体中の自由電子と正孔の働きについて理解する。 ・共有結合、真性半導体から不純半導体の特性を理解する。 ・キャリアのふるまいについて理解し、pn接合面での現象について理解する。	8
5月	ダイオード	pn接合ダイオード ・図記号、端子名、端子記号、電流の流れる向きについて理解する。 ・pn接合の整流作用、順電圧と順電流、降伏現象について理解する。 その他のダイオード ・その他のダイオードの特徴・特性について理解する。	9
6月	トランジスタ	バイポーラトランジスタ ・図記号、端子名、端子記号、電流の流れについて理解する。 ・電圧の加え方、電流増幅作用、スイッチング作用について理解する。 ・静特性の特性図を理解する。 ・最大定格について理解する。	13
7月	電界効果トランジスタ	電界効果トランジスタ(FET) ・接合型FETの図記号、端子名、端子記号、電圧駆動について理解する。 ・MOS型FETの図記号、端子名、端子記号、電圧駆動について理解する。	6
9月	増幅回路	増幅とは ・増幅の原理、特に直流電源の必要性について理解する。 ・増幅度と利得について理解し、計算できるようにする。 トランジスタの基本増幅回路 ・3つの接地回路について理解し、エミッタ接地増幅回路の動作点について理解する。	12
10月	トランジスタのhパラメータ	トランジスタのhパラメータ ・静特性からhパラメータを理解し、回路計算のための等価回路について理解する。 ・hパラメータを利用して、増幅度、入出力インピーダンスを計算できるようにする。	13
11月	トランジスタバイアス回路の設計	トランジスタバイアス回路の設計 ・1電源方式の3つのバイアス回路を理解し、バイアス回路を設計する。	9
12月	集積回路	集積回路 ・集積回路の特徴について理解する。 ・バイポーラICとMOSICについて理解する。	8
1月	小信号増幅回路の特徴	小信号増幅回路 ・バイアス回路と交流回路について理解する。 ・hパラメータで、バイアス回路のバイアス点を計算できるようにする。 ・hパラメータで、交流回路の増幅度、入出力Zを計算できるようにする。 ・周波数特性について理解する。	8
2月	小信号増幅回路の設計	小信号増幅回路の設計 ・ここまで学習した内容から、トランジスタを利用した小信号増幅回路を設計できるようにする。	11
3月	負帰還増幅回路	負帰還の原理 ・正帰還と負帰還を理解する。 ・負帰還増幅回路の特徴について理解する。	8
	評価の観点・方法	中間考査、期末考査、授業に取り組む態度、ノート提出、プリント提出、出欠状況などを考慮して総合的に判断して評価。	